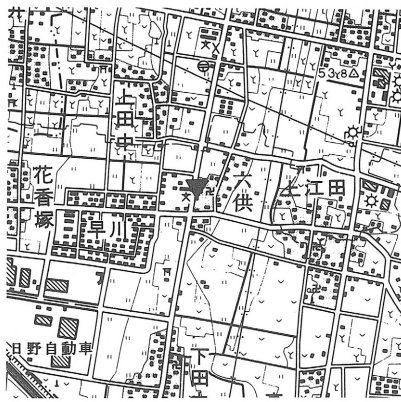


群馬・前六供遺跡
ましろつぐ

- 1 所在地 群馬県新田郡新田町上田中字前六供
- 2 調査期間 一九九八年(平10) 二二月
- 3 発掘機関 新田町教育委員会
- 4 調査担当者 小宮俊久
- 5 遺跡の種類 集落跡・墳墓
- 6 遺跡の年代 古墳時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(深谷)

前六供遺跡は、石田川左岸の低台地上に立地している。今回の調査は、県道の拡幅に伴う狭長な範囲を対象とし、古墳時代前期の前方後方墳一基、古墳時代の竪穴式住居八棟、奈良時代から中世の掘立柱建物六棟、井戸八基などの遺構を検出した。

木簡は調査地の北端部にある三号井戸から出土した。この井戸は直径二・四m深さ一・四mで、最下面には

木製の枠が残存していた。木簡は井戸の底面から上に一〇cmの地点で出土している。木簡の他には須恵器杯・高台杯、土師器杯・甕や木皿、鋤などが出土しており、このうち須恵器三点には「新」と墨

書されている。出土した土器は平安時代の遺物と考えられるが、調査地内では三号井戸の他にはこの時代の遺構は検出されなかった。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「以三月十六日天福 十八^{〔日カ〕}天福

四月九日^{〔日カ〕}天福

〇^{〔貞カ〕}観九年四月十五日^{〔日カ〕}

・「 別當代^{〔日カ〕}〇〇

目代^{〔日カ〕}〇〇^{〔天福〕}

検収権目代壬生『道^{〔日カ〕}〇〇』

430×59×9 011

「〇観九年」は、出土した土器の年代観などから「貞観九年（八六七）」とみてほぼまちがいない。曲物の蓋板を転用し、両面に墨書する。側面の一部を欠損するが、木簡としてはほぼ完形を保つ。また、右側面下部には鋸歯状の刻みが一カ所入れられている。内容は、日付と責任者の自署とを記しており、約一カ月分の物品の出

納に関わる帳簿と思われる。

9 関係文献

なお、本木簡の釈文は平川南氏によるものである。

新田町教育委員会『前六供遺跡・後谷遺跡・西田遺跡』（二〇〇〇年）

（小宮俊久）

